

【こども教育学部 こども教育学科】

脇田 哲郎

WAKITA Tetsuro

こども教育学部長、こども教育学科長・教授

所 属	九州栄養福祉大学	こども教育学部	こども教育学科
担 当 科 目	[こども教育学部 こども教育学科] 【課程認定委員会における教員審査 (単独担当「可」)】(令和7年度、九州栄養福祉大学 教授) ・現代教育論 ・学級経営論Ⅰ ・学級経営論Ⅱ ・特別活動指導論 ----- [こども教育学部 こども教育学科] オムニバス ・教育原理 ・学校運営と制度 ----- 九州栄養福祉大学・大学院博士課程 (1年後期:リハビリテーション教育学Ⅰ) (2年前期:リハビリテーション教育学Ⅱ)		
専 門 分 野	■教育学 (特別活動 学級経営 食育)		
最 終 学 歴	鹿児島大学教育学部特別教科保健体育教員養成課程		卒業
学 位	学士		
職 歴	福岡県宇美町立宇美東小学校 教諭 (昭和54年4月～昭和62年3月) 福岡県新宮町立相島小学校 教諭 (昭和62年4月～平成元年3月) 福岡教育大学附属福岡小学校 長期派遣研修員 (平成元年4月～平成2年3月) 福岡県新宮町立新宮小学校 教諭 (平成2年4月～平成7年3月) 福岡県教育庁福岡教育事務所 指導主事 (平成7年4月～平成10年3月) 福岡県教育庁教育振興部義務教育課 指導主事 (平成10年4月～平成14年3月) 福岡県宗像市立東郷小学校 教頭 (平成14年4月～平成17年3月) 福岡県宗像市教育委員会 主幹指導主事 (平成17年4月～平成21年3月) 福岡県宗像市立玄海東小学校 校長 (平成21年4月～平成26年3月) 福岡県教育センター教育 経営部長 (平成26年4月～平成27年3月) 福岡教育大学教育学研究科教育実践専攻 教授 (平成27年4月～令和5年3月) 学校法人東筑紫学園東筑紫短期大学食物栄養学科教授 (令和5年4月～令和7年3月) 学校法人東筑紫学園九州栄養福祉大学こども教育学部 (令和7年4月～現在に至る) こども教育学科 教授 (現在に至る)		
教育上の業績	○小学校学習指導要領解説特別活動編作成協力者 (平成18年10月～平成20年3月まで) ○道徳教育に係る学習評価の在り方に関する専門家会議委員 (平成27年5月～現在に至る) ○中央教育審議会委員 (特別活動WG) (平成27年11月～平成28年6月まで) ○小学校学習指導要領解説特別活動編作成協力者 (平成28年3月～平成29年3月まで) ○食育に関する指導の手引き (文部科学省) 作製協力者 (平成30年3月～平成31年3月まで)		
主な研究活動	【学術論文】 1.学級担任の学級会の指導に関する指導上の課題～教職員の意識調査から～ (共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第6号 (平成28年1月) (概要) 本研究は、子供の成長に大きな役割を果たすと言われる特別活動への取り組みが、学校現場では積極的に行われていないという現状に対して、学級活動(1)の「学級会」について在籍校の教職員の意識調査を通して明らかにしようとした。その結果、特別活動の教育的な意義は理解してはいるが、具体的な指導法がわからないという教職員の意識が見えてきた。 著者:後藤和歌子, 脇田哲郎が研究の実際と考察を指導 2.若年教師の学級経営に関する課題の究明-アセス調査と教師の子供への言葉かけの調査を通して- (共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第7号 (平成29年1月) (概要) 本研究は、円滑な学級経営が行われていない若年教師の学級経営の問題点を探り、若年教師の学級経営力を向上させるためのコンサルテーションを行った。支援の結果子供とのコミュニケーション		

ョン能力の向上や子供理解をはじめとする学級経営の機能的な部分を改善できた。

著者：山本克代, 脇田哲郎が研究の実際と考察を指導

3.在籍中学校におけるキャリア教育の現状と課題-教師と生徒のキャリア教育に関する意識調査から-
(共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第7号 (平成29年1月)

(概要) 本研究は、次期学習指導要領にキャリア教育の要として位置付けられる学級活動(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」の実施に向け、職場体験学習だけがキャリア教育として捉えられてきた在籍校の実施状況を見直し、キャリア教育と他教科との関連や具体的な授業づくりに課題があることが分かった。著者：森 沙織, 脇田哲郎が研究の実際と考察を指導

4.教職大学院における「特別活動の理論と実践」の授業提案-実践的指導力を育成する内容構成を通して-
(単著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第8号 (平成30年1月)

(概要) 本研究は「特別活動の理論と実践」『科目コード：D2041800・単位：2単位・対象：教育実践力開発コース1年・必修・講義演習』(以下、本科目)の授業をもとに、教職大学院における本科目の効果的な授業のあり方を提案するものである。授業では、学級活動(1)の話し合い活動(以下、学級会)の実践的指導力の育成を目指して、学級会の授業を「見る」「つくる」「実践する」活動で構成するなど本科目の授業の進め方の一事例を提案できた。

5.学級活動1)を柱にした校内研究の推進に関する課題-学級活動1)に関する教師の意識、児童のアセス調査から-
(共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第8号 (平成30年1月)

(概要) 本研究は、人間関係の希薄さからくる児童の課題を校内研究を柱に解決しようとしたものであり、教師の意識と児童の実態調査をもとに具体的な校内研究の内容と実施計画を設定した。その結果、研修組織の再編化や、日常的な実践の継続化、年間指導計画の見直しなど具体的方策の必要性が明らかになった。著者：池上詠子, 脇田哲郎が研究の実際と考察を指導

6.意思決定に導く学級活動(3)の授業づくり～「見付ける・決める」段階の工夫を通して～
(共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第9号 (平成31年1月)

(概要) 北九州市立A中学校の第2学年の子ども達を対象に、中学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別活動編に示されたキャリア教育の「要」としての学級活動(3)において、子ども達ひとりひとりが個性豊かな“意思決定”を行えるように、「見付ける」・「決める」段階の工夫を行い、子ども達を意思決定に導くガイダンス授業として、その工夫が効果的であるか検証した。

著者：近藤彰信 脇田哲郎が研究の実際と考察を指導

7.学級経営の充実に資する小学校係活動の研究-居心地の良い集団による遊びを基盤とする活動を通して-
(単著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第9号 (平成31年1月)

(概要) 本研究は、小学校学習指導要領解説特別活動編(平成29年告示)に示された、自発的・自治的な活動として係活動を中心に学級経営の充実を図る場合、どのような活動が学級経営の充実につながるのかを明らかにしようとした。福岡県内の小学校5学級に協力を依頼し、学級経営の充実につなぐ係活動を究明した。その結果、学級内の対人的適応は向上し学級経営の充実効果が見られた。

8.若手教員の学級活動(3)の授業力向上を目指す研究-学級活動(3)プランニングシートを活用したコンサルテーションを通して-
(共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第10号 (令和2年1月)

(概要) 本研究は、2019年3月と同年12月に訪問したエジプト国ルクソール地方とカイロ市、ハルガダ市の特別活動(以下、特活(TOKKATSU))を中心とする日本式学校(以下、EJS(Egyptian Japanese Schools))で実施された特活セミナーと授業研究会、保護者セミナーから見えてくる導入の現状と課題を整理し、今後のEJSの在り方を探るものである。その結果、保護者にはEJSの教育的な効果が認識されてきているのが分かった。

9.エジプトの日本式学校(EJS)におけるTOKKATSU導入の現状課-TOKKATSUセミナーと授業研究会、保護者セミナーを通して-
(単著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第10号 (令和2年1月)

(概要) 本研究は、2019年3月と同年12月に訪問したエジプト国ルクソール地方とカイロ市、ハルガダ市の特別活動(以下、特活(TOKKATSU))を中心とする日本式学校(以下、EJS(Egyptian Japanese Schools))で実施された特活セミナーと授業研究会、保護者セミナーから見えてくる導入の現状と課題を整理し、今後のEJSの在り方を探るものである。その結果、保護者にはEJSの教育的な効果が認識されてきているのが分かった。

10.自発的・自治的活動といじめの未然防止との関連に関する一考察-学級の人間関係に関する議題を話し合う学級会を通して-
(単著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第10号 (令和2年1月)

(概要) 本研究は、学習指導要領(平成29年告示)に示された「学級経営の充実やいじめの未然防止等」につながる「自発的・自治的な活動」としての学級会に視点を当て、どのような学級会が学級経営の充実やいじめの未然防止に機能するのか学級会を指導した担任への聴取と学級会の発言記録か

ら、教師が学級会の教育的な効果信じて、積極的に子供たちに話し合いをさせていることや児童の状態を見極め、発生した問題の今後の影響を見通していることが確認できた。

11. 子供の学校適応を促進する学級活動(1)の研究—子供に任せる活動の充実を通して—
(共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第11号 (令和3年1月)

(概要) 本研究は「荒れた」学級の立て直しに、白松(2014)の『学級づくり方』学級経営領域の「子供に任せる活動」を中心に話し合い活動を実施した。その結果、学級の喧嘩や揉め事の数値が有意に下降した。又、困ったことは話し合いで解決している、他の当番や係に協力している、何でも言えるという数値が有意に上昇し学級適応が促進したことが明らかになった。

著者：柳井文陽，脇田哲郎が研究の実際と考察を指導

12. 豊かな友達づくりにつながる学級活動(1)の研究—人間関係の向上に係る課題の解決を通して—
(共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第11号 (令和3年1月)

(概要) 本研究は、子供たちの豊かな友達づくりを目指し、学級活動(1)において、人間関係の向上に係る課題についても話し合い、解決する実践を行うことが、子供たちの友達との関係づくりによどのように影響するかを検討した。その結果、人間関係の向上に係る課題の解決の実践を積み重ねることは、豊かな友達づくりにつながることを示唆された。

13. 自己の生活課題を改善する自己指導能力の育成—学級活動(2)で進める食に関する指導を通して—
(共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第12号 (令和4年1月)

(概要) 本研究は、学力や体力の土台となる健康課題に関する自己指導能力の育成を目指し、児童が自主的・実践的な学びを促進する食に関する指導を学級活動(2)を研究領域として、その指導の在り方を検討した。その結果、児童が健康課題に関する行動目標を自己理解に基づいて意思決定したり、実践したりすることで自己指導能力の向上が見られた。

著者：門司隆宏，脇田哲郎が研究の実際と考察を指導

14. 学級会デジタルコンテンツを活用した教員研修の一方途—学級会セルフチェックシートの開発を通して—
(共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第12号 (令和4年1月)

(概要) 本研究は、学級担任の学級活動(1)に関する実践的指導力向上に寄与する教員研修の在り方を究明することを目指し、学級会デジタルコンテンツを活用した教員研修を実施し、効果を検証した。研究では、実践的指導力を自己評価する学級会セルフチェックシートを開発し、教員研修後に約半年のコンテンツ視聴期間を設けたのち、再度実施した調査では「自治性マネジメント」因子が有意に向上していた。著者：野中大輔，脇田哲郎が研究の実際と考察を指導

15. 人間関係に関する議題を話し合う学級会を実施した担任の指導観—小学校教員へのインタビュー調査を通して—
(単著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第12号 (令和4年1月)

(概要) 本研究は、K市とN市の6年生で行われた学級会をもとに、子供たちの日常生活に見られる人間関係に関する問題を取り上げることよとする学級担任がどのような指導観を保持しているのかを明らかにすることを目的に行った。その結果、担任の児童観「議題が生まれた背景」「子供が本気で話し合う議題」「子供や保護者への関わり」「子供の内面を知る」「学級会での学び」「学級会後の変化」「学級会での成長」という概念を明らかにすることが確認できた。

16. 院生の模擬授業指導に活用する評価の観点—熟達者の発言内容に着目して—
(単著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第12号 (令和4年1月)

(概要) 本研究は、院生の教員採用試験対策として行われる模擬授業の指導の際に活用できる評価の観点を明確にするために取組んだ。その結果「対象の学校種や学年の考慮」「アンケート結果や共通体験を想起させた導入」「児童生徒に質問したり対話したりする学習形態」「児童生徒から生まれる学習のめあて」「児童生徒の模擬授業主要テーマへの気づき」「児童生徒の言動への承認と称賛」「主題に迫るまとまりのある話」「児童生徒を引き付ける表情、声量、態度」の評価の観点を設定した。

17. 児童が自発的、自治的に企画・運営する係活動への担任教師の支援プロセスに関する質的研究—小学校教諭へのインタビューのM-GTAを用いた分析を通して—

(共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第13号 (令和5年1月)

(概要) 本研究は、学級生活の向上のための活動目標の設定や目標達成のための役割分担、係を構成するメンバーと協働して実践する係活動に取り組みせる担任教師の支援プロセスを明らかにするためにM-GTAを用いてインタビュー内容を分析し、28の概念を生成し、それらを12のサブカテゴリーにまとめ、さらに5つのカテゴリーに統合した。著者：澤山 愛，脇田哲郎が研究の実際と考察を指導

18. 学級活動(2)に心理教育プログラムを導入するときの留意点—自己の生活課題を解決するための授業づくりを通して— (共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第13号 (令和5年1月)

(概要) 本研究は、学級活動(2)に心理教育プログラムの効果的な導入について検証したものである。分析は、実践授業中の児童の会話や頑張りカードの記述、知識・技能を因るためのテスト



トの結果等から行った。その結果、児童が自分事として捉えることができるように、つかむ段階での工夫を行い、「もっとよくしたい」、「解決したい」という意欲をもたせるということが大きく影響することが明らかになった。著者：鳥原美有，脇田哲郎が研究の実際と考察を指導

19. 特別支援学級における学級活動(1)(2)(3)の可能性～合理的配慮の視点から～

(共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第13号 (令和5年1月)

(概要) 本研究は、中学校の特別支援学級の生徒に意思決定、意思表示、合意形成をする学級活動(以下、学活)(1)(2)(3)の授業を通して、合理的配慮の視点である「意思決定する力」、「意思表示する力」、「合意形成する力」の育成を試みたものである。その結果、特別支援学級の生徒に対して、意図的、計画的に学活(1)(2)(3)の授業を行うことは、将来、生徒が合理的配慮を得る際に必要な力の育成につながる事が分かった。著者：藤本凜音，脇田哲郎が研究の実際と考察を指導

20. 学級活動の各内容の特質に応じた授業援助～学級活動(1)(2)(3)プランニングシートを通して～

(単著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第13号 (令和5年1月)

(概要) 本研究は、特別活動の授業として教育課程に位置付けられている学級活動(以下、学活)(1)(2)(3)の授業づくりを援助するために学活(1)(2)(3)プランニングシート(以下、PS)を各学活の特質と学習過程に照らして作成し、その効果を検証した。その結果、現職教員には、学活の指導案の代わりになる、授業をプランニングしやすいなどの評価が得られた。また、院生や学生は授業が作りやすい、考えやすいなどの感想があった。

21. OECD ラーニング・コンパスに照らした学級活動(2)で進める食に関する指導モデル

(単著) 東筑紫短期大学研究紀要第54号：(令和5年10月)

(概要) 学習指導要領では、コンピテンシーに相当するものを「資質・能力」とし「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を各教科で育成することとしている。VUCAな時代と言われる変化の激しい社会にあって、主体的にあるべき未来を創り上げていく力の育成が児童生徒に求められるからである。コンピテンシーの概念は、OECDのDeSeCoプロジェクトで整理されたが、その時、示されたのがラーニング・コンパスである。食に関する指導では、どのように考えていけばいいのか授業モデルを考察した。

22. 児童の自発的、自治的活動の促進を阻害する特別活動研究の課題～学級会の研究構想や指導案の分析から～

(単著) 東筑紫短期大学研究紀要第55号：(令和6年10月)

(概要) 本研究は、学級会と呼ばれることの多い学級活動(1)の話し合い活動の特質は、自発的、自治的活動である。学級生活の向上を目指して、自分たちで話し合い、話し合いで決まったことを友達と協力して実践する。このような活動を通して、学級成員の心的な結びつきが強固なものになり、学力向上や生徒指導上の問題を解決することになる。しかし、最近の学級会は、児童生徒の自発的、自治的活動に程遠い、教師の手が入りすぎた活動が多く見られることが多い。なぜこのような活動が多く見られるのか、その原因を研究構想や指導案から分析する。

【学会発表】

1. 自発的、自治的活動を中心とした学級経営の充実

〈主催〉日本特別活動学会

〈開催場所〉武蔵野大学

〈開催年月日〉平成30年8月25, 26日

(概要) 日本特別活動学会第27回大会

平成29年告示学習指導要領に示された「自発的、自治的活動を中心とした学級経営の充実」を受け、学級経営の充実につながる係活動は、メンバー構成は子供任せにせず、教師が児童の人間関係に注意を払うことや教師のお手伝いではない児童の創意工夫を十分に生かした活動内容が求められる事を発表した。

2. エジプトルクソール地方のEJSにおける TOKKATSU 導入の現状～TOKKATSU セミナーと授業研究会を通して～

〈主催〉日本特別活動学会

〈開催場所〉沖縄大学

〈開催年月日〉令和元年9月14, 15日

(概要) 日本特別活動学会第28回大会

Egyptian Japanese Schools (以下、EJS) で、全人的な教育を行う日本式教育を導入しているエジプト国を2019年3月31日～4月3日に訪問し、そこで参加した「特活セミナー」「授業研究会」から、今後のエジプト人のエジプト人による特活推進の可能性について考察し発表した。

3. 自発的・自治的活動といじめの未然防止との関連に関する一考察～学級の人間関係に関する議

	<p>大を話し合う学級会を通して～</p> <p>〈主催〉日本特別活動学会</p> <p>〈開催場所〉岡山大会 (Web 開催)</p> <p>〈開催年月日〉令和12年年12月12日</p> <hr/> <p>平成29年告示学習指導要領に示された「自発的、自治的活動を中心とした学級経営の充実」受け、どのような話し合い活動が学級経営の充実やいじめの未然防止につながるか、福岡県内で行われた二つに学級会をもとに考察した結果を発表した。</p> <hr/> <p>4. 学級経営の充実やいじめの未然防止に機能する学級会</p> <p>〈主催〉日本特別活動学会</p> <p>〈開催場所〉東京大会 (Web 開催)</p> <p>〈開催年月日〉令和3年8月21, 22日</p> <hr/> <p>(概要) 日本特別活動学会第30回大会</p> <p>課題研究の第4分科会「特別活動の全体計画、内容ごとの目標達成に関わる教育機能(学級・学年・学校経営、生徒指導)の今後の方向性」について、学級会で話し合う議題は、子供たちの内面まで深く掘り下げたものであることが重要であり、議題ポストだけではなく子供のつぶやきや日記などからも議題化する指導計画の必要性について発表した。</p>
<p>主な社会活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度免許更新講習学級活動で進める食に関する指導 (令和3年7月) <p>本講習では、平成29年度告示小、中学校学習指導要領に示された、学級活動(2)に示された「エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成(小学校)」「オ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成(中学校)」において、自己の食に関する課題に気付き、課題解決のための方法を集団思考し、自己の解決方法を意思決定する学習を、食育プランニングシートで構想するとともに、食に関する自己指導能力の育成について指導した。</p> ・令和4年度福岡県教育職員免許法認定講習特別活動の指導法 (令和4年8月) <p>本講習は、教育職員免許法及び同法施行規則の規定に基づき、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種・二種免許状、中学校・高等学校教諭一種免許状、養護教諭一種免許状、栄養教諭一種・二種免許状及び特別支援学校教諭二種免許状を取得させるために必要な単位を修得させるとともに、現職教員の資質の向上を図ることを目的に実施されるもので、食育を含む特別活動について指導した。</p> ・日本特別活動学会第31回研究大会実行委員長 (令和4年8月)
<p>所属学会</p>	<p>日本特別活動学会 (平成15年8月～現在に至る)</p> <p>日本学校心理学会 (平成29年1月～現在に至る)</p>
<p>受賞歴</p>	

所 属	九州栄養福祉大学 こども教育学部	こども教育学科
担 当 科 目	<p>[こども教育学部 こども教育学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計学 ・教育心理学 ・幼児の理解と教育相談 ・こどもの理解と教育相談 ・発達心理学 ・子ども家庭支援の心理学 ・プレゼミナール ・ゼミナールⅠ・Ⅱ ・卒業論文Ⅰ・Ⅱ <p>[食物栄養学部 食物栄養学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の心理 ・教育相談 (カウンセリングを含む) 	
専 門 分 野	■臨床心理学 (心理療法論・イメージ療法)	
最 終 学 歴	九州大学大学院博士後期課程	教育学研究科/教育心理学専攻 単位取得退学
学 位	修士 (教育学)	
職 歴	<p>九州大学心理教育相談室 主任及び副主任 (1998年4月～2000年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 講師 カウンセリングⅠ・Ⅱ等 担当 (2000年4月～2007年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 准教授 教育心理学, 学校カウンセリング等 担当 (2007年4月～2018年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 教授 教育心理学, 教育相談等 担当 (2018年4月～2025年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学 こども教育学部こども教育学科 教授 (2025年4月～現在に至る) 教育心理学, こどもの理解と教育相談等 担当</p> <p>【課程認定委員会における教員審査 (単独担当「可」)】 「教育心理学」(令和7年度、九州栄養福祉大学 教授)</p>	
教育上の業績	<p>○『ライフサイクルからみた発達の基礎』平山諭ほか (編著) (2003年 ミネルヴァ書房) 小さな子どもの教育や保育を目指す人たちを读者として想定したテキストである。ライフサイクルの個性化、現代化に照準をあわせ、発達心理学を理解するための基礎知識を図表・写真、事例でわかりやすく解説した。</p> <p>○『イラスト栄養教育・栄養指導 (第6版)』城田智子ほか (編著) (2025年 東京教学社) 管理栄養士を目指す学生を対象とする栄養教育論のテキストである。筆者が分担執筆した章では、行動科学とカウンセリングの理論とモデルについて、イラストを多用して、わかりやすく概説した。</p>	
主な研究活動	<p>【著書】</p> <p>1. 「イメージの体験様式に関する研究」田嶋誠一 (編)『現実に介入しつつ心に関わる[展開編]』(2017年 金剛出版)</p> <p>(概要) イメージ療法の治癒要因の一つであるイメージの体験様式の変化過程に関する研究の動向と今後の展開について論じた。</p> <p>【学術論文】</p> <p>1. 「イメージ療法におけるイメージの体験様式に関する研究」 (心理臨床学研究 第26巻 第3号 2008年)</p> <p>(概要) イメージ面接を実験協力者に実施し、自己記述式のイメージの体験様式を測定する尺度を作成した。そして、イメージの中の視点、想像的関与、没入との関連について検討した。</p>	

	<p>2. 「未来志向的イメージ法のマニュアル作成の試みー将来の自分の姿を思い浮かべてー」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第10号 2013年12月)</p> <p>(概要) 未来志向的イメージ法のマニュアルを作成し、実験協力者の試行的に実施した。その結果、将来に対するイメージが明確になり、前向きな姿勢が生じる等の肯定的な変化が見られた。</p>
	<p>3. 「イメージ療法におけるイメージの体験様式の変化過程」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第15号 2018年12月)</p> <p>(概要) イメージ面接の逐語記録からイメージの体験様式を5段階(レベル)で評定するスケールを作成し、レベルに影響を与える要因について探索的に検討した。</p>
	<p>4. 「九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学カウンセリングルームの現状と課題(4)」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第16号 2019年12月)</p> <p>(概要) 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学カウンセリングルームの平成26～30年度の学生相談活動について報告し、現状を分析した上で、今後の課題について検討した。</p>
	<p>5. 「イメージの体験様式から見たトラウマとその治療ー統合的な理解に向けてー」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第17号 2020年12月)</p> <p>(概要) トラウマ関連技法について概説し、それらの治療プロセスをイメージの体験様式と言う概念を採用することで統合的に理解できることを示した試論である。</p>
	<p>6. 「虐待を受けた子どもの理解と支援」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第18号 2021年12月)</p> <p>(概要) 学校現場の先生が、虐待を受けた子どもをどのように理解し支援したらよいかについて、虐待の発見介入から、一時保護、在宅あるいは施設入所後の学校での支援の実際について論じた。</p>
	<p>7. 「摂食障害傾向をもつ女子学生のバウムテスト」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第20号 2023年12月)</p> <p>(概要) 摂食障害傾向をもつ女子学生と摂食障害をもつ女性とのバウムテストの特徴を比較し、摂食障害の発症を抑制する要因について探索的に検討を行った。</p>
主な社会活動	周防学舎シニアカレッジ講師 (2019年8月) 児童養護施設なかべ学院安全委員会委員長 (2021年4月～現在に至る) 広島県栄養士会 研修会講師 (2024年8月)
所属学会	日本心理臨床学会員 (1994年～現在に至る) 日本人間性心理学会員 (1995年～現在に至る) 日本催眠医学心理学会員 (1997年～現在に至る) 日本学生相談学会員 (2009年～現在に至る) 日本心理療法統合学会 (2024年～現在に至る)
受賞歴	なし

山田 俊之 YAMADA Toshiyuki 教授

所 属	九州栄養福祉大学	こども教育学部	こども教育学科
担 当 科 目	[こども教育学部 こども教育学科] 【課程認定委員会における教員審査 (単独担当「可」)】(令和7年度、九州栄養福祉大学 教授) ・特別支援教育概論、特別支援教育、ボディパーカッション教育 ・障害と福祉 ・人権教育 ・ボディパーカッション教育Ⅰ ・ボディパーカッション教育Ⅱ		
	[こども教育学部 こども教育学科] オムニバス ・音楽教育応用 (様々な楽器)		
専 門 分 野	■教育学 (特別支援教育・ボディパーカッション教育・インクルーシブ教育)		
最 終 学 歴	九州大学大学院人間環境学府博士後期課程 (教育システム専攻) 満期修了		
学 位	修士		
職 歴	福岡県久留米市立大橋小学校 教諭 (昭和57年4月～昭和62年3月) 福岡県久留米市立南薫小学校 教諭 (昭和62年4月～平成4年3月) 福岡県久留米市立篠山小学校 教諭・教務主任 (平成4年4月～平成8年3月) 福岡県久留米市立久留米養護学校教諭 (平成8年4月～平成13年3月) 同 久留米養護学校教育相談室長 福岡県久留米市立荒木小学校教諭 (平成13年4月～平成17年3月) 福岡県久留米市立久留米養護学校教諭 (平成17年4月～平成19年3月) 久留米市観光コンベンション国際交流協会 (平成19年4月～平成20年3月) (久留米市教育委員会) 福岡県久留米市立南小学校教頭 (平成20年4月～平成22年3月) 福岡県久留米市立小森野小学校教頭 (平成22年4月～平成24年3月) 福岡県久留米市立日吉小学校教頭 (平成24年4月～平成25年3月) 福岡県久留米市立久留米特別支援学校教頭 (平成24年4月～平成26年3月) 福岡県久留米市立西国分小学校副校長 (平成26年4月～平成27年3月) 《大学関係》 福岡女学院大学 非常勤講師 (夏季集中) (平成17年4月～平成26年3月) 非常勤講師 (教職課程) (令和3年4月～令和5年3月) 九州大学教育学部 非常勤講師 (平成26年4月～令和2年3月) 九州女子短期大学 教授 (平成27年4月～平成30年3月) 九州大谷短期大学教授 教授 (平成30年4月～令和7年3月) 九州栄養福祉大学こども教育学部 教授 (現在に至る) (令和7年4月～現在に至る)		
	○ カンボジア教育支援活動 (平成26年5月～2020年2月パンデミックで中断) 文部科学省教育課程調査官 (現国立音楽大学津田正之教授)、NPO「学校を作る会」、カンボジア教育省からの依頼により、カンボジアの小学校、児童養護施設、プノンペン王立芸術大学で、音楽教育教材として「リズム身体活動」(ボディパーカッション教育)を取り入れた音楽教育指導を開始。 ・ 2017年9月カンボジア教育支援NHK国際報道部が同行取材「国際報道2017」で国内及び海外(英語版)で放送される。		

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2018年3月九州大学カンボジアスタディツアーを指導・運営・実施 2019年3月九州大学、国立音楽大学カンボジアスタディツアーを指導・運営・実施
<p>教育上の業績 (国内・海外)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2017年8月オーストリア・ウィーン国立歌劇場インクルーシブ教育教材作品として「ボディパーカッション教育研究作品発表」。研究作品発表のための企画・作曲・指導・発表リーダーを努める。 ○ 2017年8月オーストリア国立ウィーン福祉施設で「ボディパーカッション・ボランティアワークショップ」を同行メンバー5名と共に実施。 ○ 2018年8月オーストリア・ウィーン国立歌劇場で、インクルーシブ教育教材作品として「ボディパーカッション教育研究作品」を発表。研究作品発表のための企画・作曲・指導・発表リーダーを努める。 ・ ○ 2018年8月オーストリア国立ウィーン福祉施設で「ボディパーカッション・ボランティアワークショップ」を同行メンバー8名と共に実施。 ○ 2019年12月アメリカ・ニューヨーク「カーネギーホール」でインクルーシブ教育教材作品として「ボディパーカッション教育作品発表」を実施する。発表演奏会終了直後に、スタンディングオベーションが起こりインクルーシブ教育作品としての高い評価を頂く。研究作品発表のための企画・作曲・指導・発表リーダーを努める。 2019年12月、ニューヨーク公立高齢者福祉施設で「ボディパーカッション・ボランティアワークショップ」を同行メンバー20名と共に実施。 ○ 2023年3月、イギリス・オックスフォード大学シェルドニアンシアターに於いて、オックスフォード大学学生と交歓交流し、インクルーシブ教育教材作品として「ボディパーカッション教育研究作品発表」を実施。この時、イギリスの「インクルーシブ合唱団」(英国BBCが取材した子どもから青年までの様々な障害がある団体)、オックスフォード大学所属の合唱団とボディパーカッション活動で共演する。日本からは高校生・大学生・教師・音楽教育関係者約40名が参加した。この時、ボディパーカッションの指導・作曲・編曲・研究発表リーダーを務める。 ○ 2023年3月、イギリス公立「ロンドン・オープン・エイジセンター」(障害者・高齢者施設)において「ボディパーカッション・ボランティアワークショップ」を同行メンバー40名と共に実施。 ○ 2023年12月、オーストリア・ザルツブルグ・モーツアルトゆかりのホール「モーツアルテウム大ホール」でインクルーシブ教育教材作品として「ボディパーカッション教育作品発表演奏会」を実施。演奏会最後に、ボディパーカッション教育誕生のきっかけになった「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」(モーツアルト作曲)を、クラリネット四重奏でウィーン放送管弦楽団首席奏者、モーツアルテウム管弦楽団首席奏者と共に、日本からの同行メンバー20名(大学生、教育関係者他)でボディパーカッションと共演。研究作品発表のための企画指導・発表リーダーを努める。 ○ 2023年12月オーストリア国立ウィーン福祉施設でのボランティアワークショップを同行メンバー20名と共に実施。 <p>《不登校支援、発達障害療育研究、特別支援教育研究について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2021年4月よりのぞえの丘病院(福岡県久留米市)・思春期入院病棟(久留米市教育員認定病院学級)で不登校児童生徒、発達障害及び軽度発達障害児童生徒対象にセラピー指導(音楽療法)研究及びワークショップセッション(体験的リズム運動療法)を定期的にも実施。(継続中) ○ 2025年より、九州大学大学院人間環境学府附属総合臨床心理センター、子ども発達や生涯発達支援について、心理リハビリテーションを基に、障害児者のコミュニケーションや集団参加を支援する集団療法としてボディパーカッション教育研究や研修会を実施。その講師を務めている。(継続中)

	<p>《ボディパーカッション教育研究について》</p> <p>○2005年4月、ボディパーカッション教育研究会を発足し、当時文部科学省教育課程調査官の津田正之氏を迎え、2015年「ボディパーカッション教育研究大会・全国大会」を東京都の中央区立久松小学校で開催。の時、大会実行委員長としてボディパーカッションの公開授業を担当し、幼児教育、小学校、特別支援教育における有効性について研究発表やシンポジウムを実施。</p> <p>○ ○2025年4月、ボディパーカッション教育研究会を母体に、2023年3月に実施した「2023 オックスフォード大学 (シェルドニアンシアター) ボディパーカッション教育研究作品発表」を契機に、「国際ボディパーカッション教育学会」を主宰し、インクルーシブ教育推進のための学術研究団体を発足し、国内外のボディパーカッション教育研究を推進するための団体を設立する。</p>
<p>主な研究活動</p>	<p>【学術論文・他】</p> <p>1. 児童・生徒のコミュニケーション能力を高める「ボディパーカッション教育」の展望—特別支援教育発展の手がかりとして— (単著) 山田俊之 (平成21年6月) 『飛騨論集』(九州大学大学院人間環境学府)</p> <p>(概要) 本研究は、特別支援教育を視点に、現在日本の特別支援教育が抱える問題点を指摘し、生徒のコミュニケーション能力を培う、リズム身体表現活動を通じたボディパーカッション教育の具体的な実践例を挙げて分析と考察。</p> <p>2. 実践論文:聴覚障害があっても音楽を楽しめる! 「言葉の壁を越えたボディパーカッション教育を世界へ発信」 単著: 山田俊之 (平成21年7月) 発行: NHK出版</p> <p>(概要) 本研究は、聴覚障害のある児童生徒へボディパーカッション教育を取り組みを始めた(1997年)きっかけから、その経緯やNHK交響楽団との共演に至るまでを、時系列で実践論文として記述している。「聴覚障害があっても、振動や視覚情報などで補完して音楽を楽しめる」ことを、実際に体験した生徒の作文や指導教師のインタビューによって伝えている。(第43回NHK障害福祉賞受賞論文集・最優秀受賞作品) 選考委員長: 山口 薫氏 (星槎大学学長) 選考委員: 柳田邦男氏 (評論家) 他4名</p> <p>3. 特別支援教育現場のリズム身体表現活動 (ボディパーカッション教育) の実践とその効果について～発達障害、聴覚障害の具体的な教育を通して～ 単著: 山田俊之 (平成23年6月) 発行: 読売新聞社「第60回読売教育賞」論文集</p> <p>(概要) 本研究は特別支援教育において、発達障害、聴覚障害の実践的な教育方法を、ボディパーカッション教育や音楽リズム身体活動において分析し、発達段階に応じたカリキュラム例(個別の支援計画を基にして複数の障害種別)を提示。具体的な指導実践方法を提案している。平成23年度「第60回読売教育賞」(特別支援教育)最優秀受賞論文。</p> <p>4. 特別支援教育におけるボディパーカッション教育カリキュラム構成—コミュニケーション能力を高めるリズム教育の観点から— (単著): 山田俊之 (平成24年9月) 発行: 九州大学大学院人間環境学府教育学研究室</p> <p>(概要) 本研究は特別支援教育を視点に、様々な児童生徒が一つの教室で生活していくことを前提に、生徒のコミュニケーション能力を培う活動を提案している。リズム活動(ボディパーカッション教育)を通じた身体表現活動の分析と考察。発行: 『教育経営学会紀要』第15集</p> <p>すべての子ども達を楽しめる! 心と体で触れ合う特別支援の子どもと高齢者の交流活動 (単著) 山田俊之 (平成27年12月) 発行: 「特別支援教育の実践情報」(明治図書) …巻頭連載</p> <p>5. (概要) 本研究は、総合的な学習の時間の「福祉活動」において、特別支援学級、通常学級の子どもたちが取り組める内容。「思うように体が動かなくなる」「記憶力、判断力が鈍る」視力、聴力、筋力が衰えてくる」「車いすで生活する」などの年を重ねることで直面する問題を、特別支援が必要な子ども達との具体的な交流方法を楽譜、図表を使って解説提示している。</p> <p>6. 全国アンケート調査にみる、ボディパーカッション教育の可能性。～児童生徒のコミュニケーション能力を高めるリズム身体表現の一考察～ 6. 単著: 山田俊之 (平成29年9月) 発行: 九州女子大学紀要第54巻1号</p> <p>(概要) 本研究は、児童生徒同士が非言語を中心にリズム身体表現活動を主体にした活動に取り組み、自己表現力を培うボディパーカッション教育を通して生徒のコミュニケーション能力高める効果について、ボディパーカッション教育研修会受講生のアンケート調査に基づき、データ結果を分析しその可能性について考察した。</p> <p>7. 幼児教育におけるコミュニケーション能力を高めるインクルーシブ教育実践の一考察～楽器がなくても“気になる子ども”と一緒に音楽を楽しめるボディパーカッション教育 (単著) 山田俊之 (平成31年1月)</p>



(概要) 本研究は、平成28年度「合理的配慮」(障害がある子ども達へハンディにならないように配慮しなければならない)という内容が法的義務小中学校で課されている。現在、幼児教育の分野では努力義務になっている。幼児教育分野においても将来法的義務を視野に入れて、そのような子ども達への合理的配慮の方法や具体的な取り組み方をボディパーカッション教育教材の視点から具体的に解説している。

【教科書に採用された作品】

8. ボディパーカッション曲「花火」

作曲：山田俊之 (平成17年4月) 平成17年度小学校3年生音楽科教科書「音楽のおくりもの」

(概要) 本作品は、平成17年度より、文部科学省検定・小学校3年生用音楽科教科書「音楽のおくりもの」(教育出版)に採用されたボディパーカッション曲「花火」である。手拍子、おなかや膝打ち、足踏みなどを取り入れた「からだ全てを楽器にした」音楽科教育教材である。画期的な教材として小学校音楽家教科書に取り入れられることになった。

9. ボディパーカッション曲「手拍子の花たば」

作曲：山田俊之 (平成24年4月) 文部科学省編集・特別支援教育用中学部音楽科教科書

(概要) 本研究は、ボディパーカッション教育作品は「間違えても、間違いにならずに、ずれた音が装飾音符として解釈できる」考え方が、特別支援教育に親和性があり、作曲者の山田俊之が特別支援学校(当時の久留米養護学校)での実践を基に作った教材である。その教材を文部科学省編集委員のメンバーが実際に特別支援学校で実践しその有効性を確認し特別支援教育用中学部音楽科教科書に採用が決まった。

【主な出版書籍 *単著のみ】

10. 書籍「ボディパーカッション入門」

(単著) 山田俊之 (2000年12月) 音楽之友社

(概要) 本書は、ボディパーカッション教育を始める人のための入門的書籍。考え方や、ボディパーカッション誕生の軌跡を記述している。リズム遊びやリズム練習、入門曲「手拍子の花束」を詳しく説明している。

11. 書籍「楽しいボディパーカッション①リズムで遊ぼう」

単著：山田俊之 (2001年8月) 音楽之友社

(概要) 本書は、初心者でもわかりやすくボディパーカッションのさまざまな曲を紹介している。具体的には、教科書に掲載されたボディパーカッション曲花火を、難易度順にバージョンを分けて解説している。

12. 書籍「楽しいボディパーカッション②山ちゃんのリズムスクール」

単著：山田俊之 (2003年8月) 音楽之友社

(概要) 本書は、リズム遊びの応用編を紹介し、ボイスアンサンブル曲で「ワンキャンブーブーコケコココー」や「フルーツアラカルト」紹介し、聴覚障害の子どもたちでも取り組める合唱曲を掲載している。

13. 書籍「楽しいボディパーカッション③リズムで発表会」

単著： 単著：山田俊之 (2004年8月) 音楽之友社

(概要) 本書は、本格的な曲に取り組めるためにリズムの練習法を冒頭で紹介し楽しいリズム遊びも入れている。行事や音楽界の発表で取り組めるような楽曲を紹介しています。具体的には小学校高学年から高校生まで楽しめるボディパーカッション曲を網羅している。

14. 書籍「ボディパーカッション de クラスづくり」

(単著) 単著：山田俊之 (2011年3月) 明治図書

(概要) 本書は、ボディパーカッション誕生のきっかけを作ったリズム遊びからスタートし、簡単なリズムの組み合わせからクラス全体が楽しめる内容になっている。さらにはインクルーシブ教育に取り組めるように間違えても安心できる内容を説明している。

15. 書籍「特別支援教育 de ボディパーカッション」

単著：山田俊之 (2011年3月) 明治図書

(概要) 本書は、特別支援教育の現場でも使えるように具体的な指導法を記述している。特に点さまざまな障害がある場合には、個別の指導計画や個別の支援計画なども提示して個人の種別に応じた指導方法も説明している。

16. 書籍「体がすべて楽器です！ザ・ボディパーカッション ほかほかペン屋さん」

(単著) 単著：山田俊之 (2007年8月) 音楽之友社



(概要) 本書は、ボイスアンサンブルのホカホカパン屋さんを本書のタイトルにしている。この曲は音程が上手に撮れない子供たちも一緒に声を出して合唱のように楽しむ曲である。このように音楽が苦手な子供達でも取り組めるボディパーカッション曲をさまざまなパターンで紹介している。

17. 書籍「体がすべて楽器です！ザ・ボディパーカッション ケチャ風お茶漬け」
 (共著) 単著：山田俊之 (2007年8月) 音楽之友社

(概要) 本書は、中学校の音楽教材でも使えるように、バリ島のけちやをモデルにして楽曲を構成しており音楽的にはリズムの重なりを楽しめる曲になっている。また、ボディパーカッションでも楽しいさまざまな曲を紹介している。

18. 書籍「体がすべて楽器です！ザ・ボディパーカッション B級グルメパーティ」
 単著：山田俊之 (2010年4月) 音楽之友社

(概要) 本書は、子供たちが学級活動や音楽活動がより楽しくなるように本書のタイトルにあるように食べ物を扱った曲を取り入れている。子供たちが好きな食べ物は興味を持って音楽活動に取り組める内容の教材。

19. 書籍「ピアノ de ボディパーカッション」ピアノ演奏用
 単著：山田俊之 (2017年8月10日) 音楽之友社

(概要) 本書は、音楽教室やピアノを専門にする方々と一緒にボディパーカッションが楽しめる教材である。具体的にはピアノ習う時に最初に学ぶ曲を中心に難しい曲まで網羅しており、ピアノの先生でも十分に音楽を楽しめる曲集になっている。

20. 「幼稚園・保育園 de ボディパーカッション」
 単著：山田俊之 (2018年3月) 明治図書

(概要) 本書は、幼児教育に焦点を当てたボディパーカッションの書籍である。幼児教育では遊び学習の中からさまざまな学びをしていく。その中で体験的にボディパーカッションを活用して、幼稚園や保育園でよく歌う歌に合わせたボディパーカッション曲を提案。簡単なリズムパターンを覚えておくだけでさまざまな曲ができるように工夫されておりインクルーシブ教育教材としても考えて作成した。

21. 「ボイスアンサンブル&ボディパーカッション de リズム合唱」
 単著：山田俊之 (2021年11月) 明治図書

(概要) この書籍はリズム合唱を提唱しているインクルーシブ教育教材。聴覚障害の子どもたちが歌うときに、音程をとるのが大変難しくうまく発音できない場合が多い。その点ボイスアンサンブルは音程に関係なく声を出すことができるのでリズムを主体に音楽活動ができる。上手に歌えない子供にとってもみんなと一緒に声を出しリズムを合わせることによって楽しむことができる。

22. 「決定版！すべての人おくるボディパーカッション BEST」
 単著：山田俊之 (2016年2月) 明治図書

(概要) この書籍の画期的なところは図形楽譜を使用している。通常の楽譜は使わず幼児や低学年がみても理解できるような図形楽譜をオリジナルで作成した。きっかけはカンボジア教育支援の時に楽譜が読めなくても参加できる音楽活動を目指したことから発案した。また図形楽譜を用いるので特別支援学校での使用やインクルーシブ教育教材として有効である

23 「子どものコミュニケーション能力をグーンと高めるボディパーカッション」
 単著：山田俊之 (2015年2月) 学事出版

(概要) 本書は、ボディパーカッションを取り入れることによって児童生徒のコミュニケーション能力を上げるための教材として紹介している。指導方法をDVD映像で紹介。

24 「ピアノ de ボディパーカッション」ピアノ楽譜&カラオケCD付
 単著：山田俊之 (2018年8月10日) 音楽之友社

(概要) 以前に出版した同じタイトルの書籍にCD演奏でピアノ伴奏がついている。そのため小学校や中学校での授業で活用でき、発表会などでも使える楽曲である。

25 「行事が盛り上がる！山ちゃんの楽しいボディパーカッション」
 単著：山田俊之 (2019年8月) 音楽之友社

(概要) 本書は、小学校や中学校において授業で活用し、クラスづくりや学級活動また音楽会や文化祭などで発表にふさわしい楽曲を提供している。また特別支援が必要な児童生徒も参加できるようにインクルーシブ教育教材としても配慮した内容になっている。

26 「行事が盛り上がる！鑑賞曲 de ボディパーカッション」

単著：山田俊之 （2021年9月）音楽之友社

（概要）本書は、クラシックの名曲をボディパーカッションに合わせて演奏する曲を掲載している。またクラシック曲を作曲者の意図、楽曲の構成など体で理解できるように、ボディパーカッションを活用し音楽を構造的に理解できるように工夫している。全体を2パートに分け簡単なパートは音楽が苦手な特別支援を必要とする子どもたちにも参加できるインクルーシブ教育として工夫がされている。

27 「ボディパーカッション教育入門」

単著：山田俊之 （2025年5月）音楽之友社

（概要）本書は、2000年に出版したボディパーカッション入門の改訂版。今後ボディパーカッションを指導して行くための指導者認定資格を学ぶための書籍として執筆した。具体的には、入門者用にボディパーカッション誕生の歴史や考え方、リズム遊び、リズム練習、ボディパーカッション「花火」「手拍子の花束」などの曲を掲載している

【学会発表・講演・作品発表・他】

1. ボディパーカッション教育研究作品発表（オックスフォード大学）指導

(Body percussion education for all children to enjoy musical activities)

〈開催場所〉オックスフォード大学シェルドニアシアター

〈開催年月日〉2023年3月26日

〈内容〉インクルーシブ教育教材としてのボディパーカッション教育研究作品発表と解説

（概要）The importance of nonverbal communication in special needs education and the effectiveness and prospects of body percussion education in developing students' communication skills were discussed. In addition, he presented his work as an inclusive educational material and students from Oxford University joined him for a research exchange!

2. NHK 交響楽団&ボディパーカッション教育作品演奏会の作曲・企画・指導

〈主催〉NPO 法人ボディパーカッション協会

〈開催場所〉久留米市石橋文化ホール

〈開催年月日〉平成13年12月、平成16年12月2回開催

（概要）NHK 交響楽団第一コンサートマスター篠崎史紀氏と共同企画で、「NHK 交響楽団とボディパーカッション演奏会」を開催し、その指揮を務める。2001年聴覚障害、発達障害の児童生徒とNHK 交響楽団共演、2004年 聴覚障害、知的障害、発達障害の児童生徒とNHK 交響楽団共演。内容は、ボディパーカッション教育作品を「アイネクライネナハトムジーク」「くるみ割り人形よりトレパーク」「ボレロ」「喜びの歌」「剣の舞」「美しき青きドナウ」などを子どもたちのボディパーカッションと共演。演奏会実行委員長として演奏会の企画運営を行い、ボディパーカッションの作曲、編曲、子ども達への指導、NHK 交響楽団との共演ではその指揮を務める。

3.九州社会教育主事認定講習での指導

〈主催〉文部科学省 主管 九州大学

〈開催場所〉九州大学

〈開催年月日〉平成19年度～令和6年 18年(18回) 継続中 (令和7年度も予定している)

（概要）毎年8月、(主催：文部科学省、主管：九州大学)において、講師として認定講座を担当。毎年実施される「九州社会教育主事認定講習」(主催：文部科学省、主管：九州大学)において「身体表現を通じたコミュニケーション活動」をテーマに講義を担当する。この講座を、2017年より15年連続担当している。

4. ボディパーカッション教育研究会・全国大会の企画・運営(実行委員長)

〈主催〉ボディパーカッション教育研究会

〈開催場所〉福岡県久留米市 久留米市民会館大ホール及び小ホール

〈開催年月日〉平成18年12月18・19日(2日間)

（概要）1日目の研究発表では、公開授業(篠山小学校)で山田俊之が担当し、ボディパーカッション教育教材「花火」を使って高学年を指導する。その後、全国の様々な事例研究を基に研究発表を実施。文部科学省関係者・医師・音楽教育関係者・福岡県指導主事等を招聘しシンポジウムを実施。

	<p>2 日目は、健常な小中学生、様々な障害（知的障害、発達相が、聴覚障害、肢体不自由、脳性麻痺等）の児童生徒を指導し、NHK 交響楽団と「ボディパーカッション教育」を通して共演を実現する。</p> <p>5 日本放送協会（NHK）の依頼で、インクルーシブ教育のためのボディパーカッション指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 時期：平成31年4月～令和元年12月 ○ 内容：NHK教育テレビ番組「みんなのうた」でフーリンが歌った「パプリカ」の曲に合わせて、フーリンメンバーと様々な障害がある子ども達（発達障害、知的障害、聴覚障害等）で結成されたグループ「フーリン楽団」のボディパーカッション指導を担当する。 <p>6 第9回「ボディパーカッション教育研究会・全国大会 IN 東京」企画・運営（実行委員長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての子ども達とインクルーシブ教育」全国大会を主催者として開催。 ○ 時期：令和1年10月 ○ 内容：東京・国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、シンポジスト講師として田中裕一氏（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課・特別支援教育調査官）を迎えて「インクルーシブ教育システム」全国研究会を開催。 <p>【研究会・研修会の講師・講演・指導助言・ワークショップ他】</p> <p>全国の国立大学教育学部及び教育系大学付属小中学校において、インクルーシブ教育（特別支援教育・合理的配慮）を視点に下記の地域、学校で指導助言を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 時期：平成11年～現在 ○ 内容：福岡教育大学附属小倉小学校研究会、琉球大学附属小学校研究発表会、東京都小学校「授業研究会」（音楽）で公開授業と研修指導を5年連続実施。鳴門教育大学附属で教材指導。全国私立小学校授業研究会講師、東京都立小学校授業研究会講師、大塚音楽研究会、兵庫県、北海道、愛知県、神奈川県、富山県、岡山県教育センター、佐賀県教育センター、九州附属小中学校合同研修会講師他多数。 ○ 累計約6万人の教育・音楽・福祉・医療（作業療法・音楽療法）関係者が受講。
	<p>九州大学学生対象にカンボジア教育支援スタディツアーを企画・運営・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日時：平成30年3月22日～29日 ○ 九州大学理学部・大学院生4名 ・ 九州大学学生とカンボジアスタディツアーを行い、現地の養護施設の小学生と交流し、現地の子ども達に教育支援を実施。 ・ 九州大学で教職課程を特別活動指導法の授業担当の時、ノンバーバルコミュニケーション活動として授業づくりを伝え文部科学省と学校をつくる会 jaca などが連携して行っていたカンボジア教育支援の話や映像を見て学生がカンボジア教育支援活動に興味関心があり実現した。 <p>九州大学、国立音楽大学、広島大カンボジア教育支援スタディツアーを企画・運営・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日時：平成31年3月23日～30日 ○ 九州大学、院生、国立音楽大学、広島大学院生20名 ・ 津田正之先生（国立音楽大学教授・前文部科学省教育課程調査官）と企画し、カンボジアスタディツアーを行い、現地の学校訪問や交流指導を実施するための指導を行った ・ プノンペン王立芸術大学と日本から参加した大学生が音楽的交流を行ないボディパーカッションワークショップを実施するための指導を行った。
	<p>明治図書HPの「指導技術の教科書」特別支援教育をテーマに1年間毎月連載</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 時期：平成24年6月～平成25年5月 <p>（概要） 明治図書ホームページの「指導技術の教科書」コーナーで、特別支援教育とリズム身体表現活動を組み合わせた指導方法を紹介する。毎月1回ボディパーカッション教育実践のユーチューブ動画を掲載して紹介。</p>
	<p>月刊誌「教育音楽」（音楽之友社）で18年間毎月「ボディパーカッション教材」を連載</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成13年4月～令和3年12月 ○ 作品 約220回分連載 <p>（概要） 月刊「教育音楽」（音楽之友社）が毎月発行する連載コーナーで「リズム身体表現活動」を、様々なテーマでボディパーカッション教育教材を提案する。例；「クラシックの名曲に合わせて」「英語の歌」「図形楽譜で表す」「みんなが知っているアニメ曲」「季節を感じる」他</p>
	<p>月刊教育情報誌「特別支援教育の実践情報」（明治図書）への巻頭記事連載</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成25年4月～平成26年3月

	(概要) 特別支援教育における、リズム身体活動とコミュニケーション能力をテーマに毎回新教材を紹介。特別支援教育の目標「合理的配慮、インクルーシブ教育」等をテーマに執筆。
	NHK みんなの歌「ボディパ」(作詞作曲：サキタハジメ) でボディパの監修を務める。 ○ 令和6年4月～令和7年1月 (概要) 聴覚障害の子どもたちがNHK教育テレビ子供番組に出演している子供たちと合同でボディパーカッションを楽しむための指導を定期的に行い監修した。NHKのスゴEフェスティバルに生放送で出演するために、ボディパの監修を行い令和六年12月から「みんなのうた」で放送された。
	日本音楽教育学会研究発表(九州地区例会) ○ 発表内容：カンボジア教育支援の実態から見る、リズム音楽活動における教育条件の考察 ○ 日時：令和4年3月 ○ 場所：福岡教育大学 ○ 概要：日本の教育とカンボジアの教育の違いを発表するために、日本での小学校の授業の様子とカンボジアでの小学校の授業の様子を比較検証し考察を入れて発表した。特にリズムいや拍の流れに乗ることに慣れていくのを実際の映像で示すことができた。日本の子どもたちが教育を受けている良さを考察した。
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・特定非営利活動法人ボディパーカッション協会(理事長) 平成12年～現在 ・一般社団法人「九州賢人会」(会員) 平成26年～現在 ・福岡県福岡市立西都小学校・学校サポーター(評議員) 平成30年～現在 ・福岡県筑後市立筑後北小学校学校・運営委員(評議員) 令和3年～令和7年3月 ・一般社団法人ボディパーカッション教育振興会(代表理事) 令和5年～現在 ・特定非営利活動法人地域生活支援センターForza(理事長) 令和7年～現在 日本音楽教育学会(会員) 平成14年～現在 日本生活体験学会(会員) 平成20年～ ボディパーカッション教育研究会(代表) 平成26年～現 九州公私立音楽学会、(会員) 平成28年～
所属学会	国際ボディパーカッション教育学会(学会長) 令和5年～現在
受賞歴	<ul style="list-style-type: none"> 久留米市青少年地域社会貢献賞受賞 平成12年7月 久留米市芸術奨励賞(和太鼓、ボディパーカッション教育活動) 平成15年11月 福岡市民教育賞(奨励賞) 平成16年7月 福岡県青少年アンビシャス賞 平成18年10月 キワニス社会公益賞 平成19年7月 第43回NHK障害福祉賞最優秀賞 平成21年9月 第58回読売教育賞佳作(音楽教育) 平成22年7月 福岡県共助社会地域貢献賞 平成22年11月 第60回読売教育賞最優秀賞(特別支援教育) 平成23年7月
	<p>【「ボディパーカッション」商標登録について】</p> <p>名称「ボディパーカッション」は、山田俊之が1986年小学校4年生担任の時の時“様々な立場の子ども達が仲良くクラスづくり”をテーマに考案した「インクルーシブ教育」教材名。</p> <p>商標権取得の経緯は、久留米養護学校(知的障害・1996)・久留米豊学校(聴覚障害1997)で児童生徒の指導をきっかけに、商業ベースではなく「様々なハンディがある子ども達も一緒に楽しめるインクルーシブ教育教材」として、次世代の教育・福祉・医療関係の指導者および研究者に受け継いでもらいたいと願い、下記の項目(役務)について商標権を取得。</p> <p>当時「ボディパーカッション」は無名であったが、1995年に久留米市立篠山小学校で故島木譲二氏(吉本興業)が山田俊之の指導するボディパーカッションの授業に参加し、その様子が全国放映(「ダウトをさがせ」大阪毎日放送)され、エンタメ(商業ベース)の世界で広まることを懸念し、久留米在住の梶原克彦弁理士に相談して申請に至った。</p>

井之上 浩幸 INOUE HIROYUKI 教授

所 属	九州栄養福祉大学	こども教育学部	こども教育学科
担 当 科 目	[こども教育学部・こども教育学科] 【課程認定委員会における教員審査(単独担当「可」)】(令和7年度、九州栄養福祉大学 教授) ・英語Ⅰ ・英語Ⅱ ・英語科指導法 ----- [こども教育学部・こども教育学科] オムニバス ・英語科教育論 ・キャリア研究Ⅰ ・キャリア教育Ⅱ		
専 門 分 野	■外国語(英語) ■教育概論		
最 終 学 歴	北九州大学(現・公立大学法人北九州市立大学) 文学部英文科 卒業		
学 位	文学士		
職 歴	福岡県立城南高等学校 教諭 (1983年4月～1991年3月) 福岡県立福岡中央高等学校 教諭 (1991年4月～1996年3月) 福岡県立筑紫丘高等学校 教諭 (1996年4月～2006年3月) 福岡県教育センター(教育経営部・教育指導部) 指導主事 (2006年4月～2010年3月) 福岡県教育センター(指導改善研修班) 主任指導主事 (2010年4月～2011年3月) 福岡県立須恵高等学校(教頭) (2011年4月～2014年3月) 福岡県教育センター(企画部) 総括主任指導主事 (2014年4月～2016年3月) 福岡県立太宰府高等学校 校長 (2016年4月～2018年3月) 福岡県立香住丘高等学校 校長 (2018年4月～2021年3月) 福岡教職大学院教育実践ユニット 特任教授 主な授業担当科目は以下の(1)(2)(3)(4)(5)であった。 (1) 現職派遣教諭のための英語 6科目担当 教科教育の理論と実践Ⅰ・Ⅱ 教科内容研究と教材開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ (2) 新人コースの英語 5科目担当 授業実践と評価の研究Ⅰa・Ⅰb (2021年4月～2024年3月) 授業実践と評価の研究Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ (3) 大学院が独自に設定する科目 8科目担当 課題演習Ⅱ-1, Ⅱ-2, Ⅱ-3, Ⅱ-4 異校種実習、教科指導基礎実習 教科指導向上実習Ⅰ・Ⅱ (4) 「管理職試験に向けた指導」担当 (5) 「採用試験に向けた指導」担当 九州栄養福祉大学こども教育学部こども教育学科 教授 (2025年4月～現在に至る)		
教育上の業績	○読売教育改革フォーラム2019～地方で輝く大学の挑戦 令和元年11月発行 読売新聞(読売教育改革フォーラム2019 【当該業績全体の概要】 読売教育フォーラム2019「地方で働く大学の挑戦」というテーマで京都精華大学学長ウスビ・サコ氏、九州工業大学学長尾家裕二氏とともにパネル討論を行った。香住丘高等学校の特徴ある取組を説明し、「異文化に接し自分再発見」から「ダイバーシティとグローバル教育」についても討論した。 【本人の果たした役割】 上記内容について読売新聞2019年11月26日付で2ページにわたり掲載された。異文化を通じた自己の再発見、グローバル教育について香住丘高校における英語科教育で取り組んだ意義と実績について執筆し、原稿の校正も担当した。 著者：ウスビ・サコ、尾家裕二、井之上浩幸(計3名)		

	<p>○令和元年度スーパーサイエンスハイスクール情報交換会（報告書） 発行元：国立研究開発法人科学技術振興機構 令和2年3月発行 執筆ページ数（3） 総ページ数（386）</p> <p>【当該業績全体の概要】 香住丘高校のSSH研究開発課題とSSHのねらいを踏まえた授業改善について説明した。研究開発課題は、「科学的に探究する力」、「伝え合う力の育成」、「能力評価法の研究開発」の3つの柱で構成していること。評価法は3段階ではなく5段階の観点別評価を取り入れ、主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取り組みを実践していることを全国SSH設置校校長会で発表した。</p> <p>【本人執筆部分の概要】 校長等分科会事例発表でSSHのねらいを踏まえた授業改善について報告。本校において、探究活動の中心的な役割を担っている数理コミュニケーション学科では、外国語の学習をすべて科学英語で代替し、英語によるポスター発表やプレゼンテーションに対応できる表現力の育成を目指し取り組んでいる状況を報告した。</p> <p>著者：井之上浩幸ほか（著者多数のため著者は割愛）</p>
<p>主な研究活動</p>	<p>【学術論文】</p> <p>1. 実用英語をバランスよく伸ばす英語教育を実践する香住丘英語科の取組の一考察—授業と行事の有機的接続を通して— 令和2年6月発行日本教育公務員弘済会福岡支部 教育実践論文 (概要) 英語科全生徒に対して実用英語をバランスよく身につけさせるために、授業と行事の有機的接続が効果的であるかについて、事後アンケートなどをもとに明らかにし、英語4技能育成に必要な今後の英語の授業の在り方も提言した。</p> <p>2. 外国語の「流暢な使用」につながる repetition と automaticity について 令和4年3月発行福岡教育大学大学院『教職実践専攻年報』12号 (概要) 高等学校における「リスニング力強化」「スピーキング力強化」「語彙力強化」のためには、音読とシャドーイングが必要ではないかと考え、理論を立てて実践したリーディングにおけるシャドウイングとオーバーラッピングの具体的な指導方法を論じた。</p> <p>【本人執筆部分の概要】 「高等学校での理論と実践について」2頁分を担当。 著者：森千鶴、井之上浩幸</p> <p>3. 外国語教育における母語の使用について—「授業は英語で」を再考する— 令和6年3月発行福岡教育大学大学院『教職実践専攻年報』14号 (概要) 本研究では、平成21年告示の高等学校学習指導要領で示された「英語の授業は英語で」に関して、特にリーディング指導に焦点をあてて、母語使用と和訳の意義について考察した。その際、伊東（2016）の提案を参照点として、教員へのインタビューも行った。</p> <p>【本人執筆部分の概要】 研究の構想と項目1～4の執筆を森が、教員へのインタビューと項目5～6の執筆を井之上が担当。 著者：森千鶴、井之上浩幸</p>
	<p>【学会発表】</p> <p>・特記事項なし</p>
<p>主な社会活動</p>	<p>・特記事項なし</p>
<p>所属学会</p>	<p>・特記事項なし</p>
<p>受賞歴</p>	<p>・特記事項なし</p>

所 属	九州栄養福祉大学	こども教育学部	こども教育学科
担 当 科 目	[こども教育学部 こども教育学科] ・保育原理 ・教育課程・保育計画 ・算数 ・算数科指導法 ----- [保育学科] ・保育原理、保育課程・保育計画と評価、 ・保育・教職実践演習		
専 門 分 野	■算数・数学教育学、 ■保育学		
最 終 学 歴	兵庫教育大学大学院	学校教育研究科	学校教育専攻
学 位	修士 (教育学)		
職 歴	北九州市立小学校教諭 (昭和 47(1972)年 4 月～昭和 63(1988)年 3 月) 北九州市立教育センター指導主事 (昭和 63(1988)年 4 月～平成 5(1993)年 3 月) 北九州市立小学校教頭 (平成 5(1993)年 4 月～平成 8(1996)年 3 月) 福岡教育大学 非常勤講師 (平成 5(1993)年 4 月～平成 20(2008)年 3 月) 北九州市立公立小学校校長 (平成 8(1996)年 4 月～平成 22(2010)年 3 月) 東筑紫短期大学 保育学科 准教授 (平成 22(2010)年 4 月～平成 27(2015)年 3 月) 兵庫教育大学大学院 非常勤講師 (平成 25(2013)年 4 月～平成 28(2016)年 3 月) 東筑紫短期大学 保育学科 教授 (平成 27(2015)年 4 月～令和 2(2020)年 3 月) 東筑紫短期大学 保育学科 学科長 (平成 28(2016)年 4 月～平成 30(2018)年 3 月) 九州栄養福祉大学 学生部長 (平成 30(2018)年 4 月～令和 2(2020)年 3 月) 東筑紫短期大学 学生部長 (平成 30(2018)年 4 月～令和 2(2020)年 3 月) 東筑紫短期大学 保育学科 特任教授 (令和 2(2020)年 4 月～現在に至る)		
	九州栄養福祉大学 こども教育学部		(令和 7 (2025) 年 4 月～現在に至る)
	こども教育学科 特任教授 [課程認定委員会における教員審査 (単独担当「可」) 「算数」「算数科指導法」「保育原理」 令和 7 年度九州栄養福祉大学特任教授		
教育上の業績	1.『幼児期の数量感覚を豊かにする活動』 (メールブック授業アップわくわくクラブ,2014・8) 2.『幼児の数量感覚はどのように育てるか』 (メールブック授業アップわくわくクラブ,2014・9) 3.『幼児の図形、時間、空間の感覚はどのように育てるか』 (メールブック授業アップわくわくクラブ,2014・10) 4.『実習生における「指導案」作成の現状と課題についての一考察』(共著) (東筑紫短期大学研究紀要 2016) 5.『病院内保育施設の現状と課題と』(共著)(東筑紫短期大学研究紀要 2016) 6.『部分指導計画案の作成に関する学生の実態と指導の在り方』(共著)(東筑紫短期大学研究紀要 2017) 7.アクティブ・ラーニングによる「保育・教職実践演習」の実践 1 (共著)(東筑紫短期大学研究紀要 2017) 8.保幼小連携・接続の在り方についての一考察(東筑紫短期大学研究紀要 2018) 9.アクティブ・ラーニングによる「保育・教職実践演習」の実践 2 (共著)(東筑紫短期大学研究紀要 2018) 10. 幼少の円滑な接続を図る算数教育の推進 1 (東筑紫短期大学研究紀要 2019) 11.アクティブ・ラーニングによる「保育・教職実践演習」の実践 3 (共著)(東筑紫短期大学研究紀要 2019) 12.幼少の円滑な接続を図る領域「環境」における保育活動の在り方-2 ～数量や図形の感覚を豊かにする活動を通して～(単著)(東筑紫短期大学研究紀要 2020) 13.アクティブ・ラーニングによる「保育・教職実践演習」の実践 4 (共著)(東筑紫短期大学研究紀要 2020) 14. 改訂学習指導要領に基づく算数科学習指導案の作成 ～どこを、どのように変えていくのか～(東筑紫短期大学研究紀要 2021) 15.アクティブ・ラーニングによる「保育・教職実践演習」の実践 5 (共著)(東筑紫短期大学研究紀要 2021)		

- 16.新学習指導要領に基づく算数科学習指導の在り方（東筑紫短期大学研究紀要 2022）
17.「数量や図形」の感覚を豊かにする幼児教育の在り方（東筑紫短期大学研究紀要 2023）
18.「主体的・対話的で深い学び」を実現する算数科授業（東筑紫短期大学研究紀要 2024）

【著書】

- 『個を生かす集団づくりの思想』（分担執筆）（黎明書房,1989・4）
『学級・授業づくりハンドブック』（分担執筆）（黎明書房,1990・12）
『こうすれば学力は伸びる』（分担執筆）（ぎょうせい,2006・6）
『学びの質を高める算数科学習指導』福岡県算数教育研究会著 会長（2008・1）
『新時代を担う小学校経営の基本』全国連合小学校校長会（分担執筆）（第一広報社,2009・5）
『365日の算数授業づくりガイドブック』志水廣・前川公一編著（明治図書,2010）
『365日の算数学習指導案1・2年編』志水廣監修・前川公一編著（明治図書,2011）
『365日の算数学習指導案3・4年編』志水廣監修・前川公一編著（明治図書,2011）
『365日の算数学習指導案5・6年編』志水廣監修・前川公一編著（明治図書,2011）
『算数教科書の「図」はこう教える』志水廣監修・前川公一編著（明治図書,2015）
『重要単元の学習指導案&板書モデル35』志水廣監修・前川公一編著（明治図書,2013）
『算数教科書の「図」はこう教える』志水廣監修・前川公一編著（明治図書,2015）

主な社会活動

- 第57回九州算数・数学教育研究（福岡）大会 指導助言 東箱崎（平成15(2003)年7月）
小学校
北九州市主催『市民と共に考える子どもの未来をひらく教育』パネ
ラー 北九州国際会議場（平成21(2009)年10月）
福岡県『教育力向上福岡県民フォーラム』パネリスト 北九州国際会
議場（平成21(2009)年12月）
第55回九州ブロック PTA 熊本大会 第一分科会 指導助言 熊（平成22(2010)年10月）
本市総合体育館
平成22年度 北九州市立小学校教頭会夏季研究大会（平成23(2011)年8月）
『今、副校長・教頭に期待すること』講話 小倉リーセントホテル
平成22年度 北九州市立小学校教頭会冬期研究大会（平成24(2012)年1月）
『教師の授業力向上を図る機能的な組織運営』講話 小倉リーセントホ
テル
第44回 北九州市算数研究会夏期研究大会 指導助言（平成23(2011)年8月）
玄海ロイヤルホテル
北九州市教育委員会委嘱（平成23(2011)年9月）
『学力向上ステップアップ事業推進指定校実践報告会』講話 城野
小学校
平成23年度 筑豊地区小学校教頭研究大会（平成23(2011)年11月）
『授業改善と教頭の役割』講演 川崎町勤労青少年ホーム
京築地区算数・数学教科推進合同研修兼特別研修会 講話 京築教（平成24(2012)年7月）
育事務所
第94回全国算数・数学教育研究大会 福岡大会 指導助言者 九（平成24(2012)年7月）
州国際大学
第45回 北九州市算数研究会夏期研究大会 指導助言（平成24(2012)年8月）
玄海ロイヤルホテル
第57回福岡県へき地・小規模校教育研究大会 講演（平成24(2012)年10月）
北九州市立伊川小学校
北九州市教育委員会委嘱『学校大好きオンリーワン事業』講評 門（平成24(2012)年11月）
司中央小学校



北九州市教育委員会委嘱 『学力向上ステップアップ事業推進指定校実践報告会』講話 城野 小学校	(平成 24(2012)年 11 月)
熊本県山鹿市立中富小学校自主研究発表会第 20 回記念大会『わか る、活かす、好きになる算数科授業の創造』講話、パネラー 中富 小学校	(平成 25(2013)年 6 月)
第 47 回北九州市算数研究会夏期研究大会 指導助言 玄海ロイヤル ホテル	(平成 25(2013)年 8 月)
北九州市教育委員会委嘱『学力向上ステップアップ事業推進指定 校実践報告会』講話 城野小学校	(平成 25(2013)年 11 月)
上毛町教育委員会指定、上毛町学力向上検証委員会研究指定発表 会講演上毛町立友枝小学校	(平成 25(2013)年 11 月)
小倉南区小学校長会『学力向上へ向けての校長の役割』講演 沼市民センター	(平成 26(2014)年 2 月)
第 48 回北九州市算数研究会夏期研究大会 指導助言 玄海ロイヤル ホテル	(平成 26(2014)年 8 月)
北九州市教育委員会委嘱 『学力向上ステップアップ事業推進指定校実践報告会』講演 城野 小学校	(平成 26(2014)年 11 月)
北九州市教育委員会委嘱『学校大好きオンリーワン事業』講話 門司中央小学校	(平成 26(2014)年 9 月)
北九州市教育委員会委嘱 『学力向上ステップアップ事業推進指定校実践報告会』講話 城野 小学校	(平成 26(2014)年 10 月)
北九州市立教育センター研修会 『数学的思考力・表現力をはぐくむ授業のあり方』講話	(平成 27(2015)年 7 月)
第 49 回北九州市算数研究会夏期研究大会 指導助言 玄海ロイヤルホテル	(平成 27(2015)年 8 月)
東筑紫短期大学附属幼稚園講演会『今、家庭教育に求められている もの』附属幼稚園 2 階講堂	(平成 28(2016)年 2 月)
第 50 回北九州市算数研究会夏期研究大会 指導助言 玄海ロイヤル ホテル	(平成 28(2016)年 8 月)
教員免許状更新講習「幼稚園教育の最新情報」講師 東筑紫短期大学	(平成 28(2016)年 8 月)
平成 28 年度北九州市私立幼稚園連盟教職員研修会 『保護者と上手に付き合う魔法のコミュニケーション』 北九州市立商工貿易会館	(平成 28(2016)年 8 月)
教員免許状更新講習「幼稚園教育の最新情報」講師 東筑紫短期大 学	(平成 29(2017)年 8 月)
第 50 回北九州市算数研究会夏季研究大会 指導助言 玄海ロイヤ ルホテル	(平成 29(2017)年 8 月)
北九州市立年長者研修大学校 周望学舎 シニアカレッジ 講師 東筑紫短期大学	(平成 29(2017)年 10 月)
平成 29 年度 幼小連携 (尾倉幼稚園・皿倉小学校) 事業 指導講師	(平成 30(2018)年 7 月)
平成 30 年度北九州市立幼稚園連盟教師研修大会 助言者	(平成 30(2018)年 7 月)
幼稚園宿泊研修会北九州大会「新しい幼稚園教育の動き」講師 か んぼの宿	(平成 30(2018)年 8 月)
第 51 回北九州市算数研究会夏季研究大会 指導助言	(平成 30(2018)年 8 月)
第 51 回北九州市算数研究会夏季研究大会 指導助言	(平成 30(2018)年 8 月)
教員免許状更新講習「幼稚園教育の最新情報」講師 東筑紫短期大 学	(平成 30(2018)年 8 月)

	第 52 回北九州市算数研究会夏季研究大会 指導助言	(令和元(2019)年 8 月)
	北九州市立若園小学校授業研究会指導助言	(令和 5(2023)年 11 月)
	北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会専門委員	(令和 2(2020)年 4 月～
	一般社団法人 理数教育研究所 (リムス九州 自由研究 審査委員)	(平成 24(2012)年～ 現在に至る)
所 属 学 会	日本数学教育学会	(平成 12(2000)年～現在に至る)
	日本保育学会	(平成 22(2010)年～現在に至る)
受 賞 歴	全国連合小学校長会感謝状	(平成 23(2011)年 4 月)
	平成 22 年度 福岡県教育文化表彰受賞	(平成 22(2011)年 4 月)
	公益財団法人 九州数学教育会表彰	(平成 28(2016)年 4 月)
	全国連合小学校長会 75 周年功績表彰	(令和 5(2023)年 4 月)

所 属	九州栄養福祉大学 こども教育学部	こども教育学科
担 当 科 目	[こども教育学部 こども教育学科] ・教職概論 ・国語科指導法 ・プレゼミナール ・ゼミナールⅠ・Ⅱ ・卒業研究Ⅰ・Ⅱ	
専 門 分 野	■国語（中学校・高等学校）及び 教育学 ■幼児教育分野 国語分野	
最 終 学 歴	福岡教育大学 教育学部 中学課程国語科専攻 卒業	
学 位	学士（教育学）	
職 歴	福岡県立門司商業高等学校 教諭 (1974年4月～1985年3月) 福岡県立豊津高等学校 教諭 (1985年4月～1996年3月) 福岡県教育庁指導第一部高校教育課指導主事 兼 企画振興部県民生活局女性政策課 参事補佐 (1996年4月～1997年3月) 福岡県教育庁指導第一部（教育振興部に改編）高校教育課 指導主事 兼福岡県立豊津高等学校付 教頭 (1997年4月～1999年3月) 福岡県立小倉東高等学校 教頭 (1999年4月～2001年3月) 福岡県立田川高等学校 教頭 (2001年4月～2002年3月) 福岡県教育庁教育振興部高校教育課主任指導主事 兼 福岡県立田川高等学校付 校長 (2002年4月～2004年3月) 福岡県立東鷹高等学校 校長 (2004年4月～2007年3月) 福岡県立小倉東高等学校 校長 (2007年4月～2009年3月) 福岡県立青豊高等学校 校長 (2009年4月～2010年3月) 福岡県立育徳館高等学校 校長 兼 福岡県立育徳館中学校 校長 (2010年4月～2011年3月) 東海大学福岡短期大学 学長付 (2011年4月～2012年3月) ○学校法人戸早学園 北九州リハビリテーション学院 学院長 (2012年4月～2013年3月) ○学校法人戸早学園・常任理事・北九州リハビリテーション学院学院長 兼 北九州保育福祉専門学校校長 (2013年4月～2014年3月) 豊前市公平委員会公平委員 (2013年6月～2013年1月) ○豊前市教育委員会教育委員 (2013年12月～2021年12月) ○学校法人戸早学園・常任理事・北九州保育福祉専門学校 校長 (2014年4月～2023年3月) ○吉富町外一市中学校組合教育委員会教育委員 (2020年10月～2022年1月) ○学校法人東筑紫学園 東筑紫短期大学 特任教授 (2023年4月～2025年3月) ○学校法人東筑紫学園 九州栄養福祉大学 特任教授 (2025年4月～現在に至る) 【課程認定委員会における教員審査（単独担当「可」）】 「教職概論・国語科指導法・プレゼミナール・ゼミナールⅠⅡ 卒業研究ⅠⅡ」（令和7年度 九州栄養福祉大学 特任教授） (2025年4月～現在に至る)	

教育上の業績 1. 教育内容の充実及び学生の習熟度向上に向けた取組等

○学校法人戸早学園北九州リハビリテーション学院にて、一般科目「教育学」及び「表現と理解」の科目に対し、講義と演習とを交えながら医療に関わる教育学と表現分野の指導の担当をした。

○学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて、幼稚園教諭免許取得に関わる、「教職に関する科目」として必須科目の「教職概論」を10年間担当した。教育者としての資質・能力を重視し、とりわけ「教育者としての心の育成」に焦点化しての授業実践を行った。授業全科目を通して「聞く力」の育成を重視し、きちんと「相手が納得するように話せる、表現できる力」の育成を重視した。幼児教育の在り方次第でその後の人生に大きく影響する意味で、伝え合い、すなわち表現力と理解力の重要性を押し付けた。附属幼稚園での教育活動や指導の際の観察や教育実習における教員の姿勢や姿を通して、いろいろな場面等において懸命に指導を行っている教育活動に対する批評や改善点などの意見交換や学習に取り組んだ。他にも、「教育方法論」をオムニバスで1年間担当した。特に多様化している幼児と保護者への教育相談対応やチームでの対応に関して、また業務に対して、協働に留意しつつ行うように指導した。また、各教員で特別支援教育（人権教育）の授業に担当とT・T等の形態で取り組んだ。

○北九州保育福祉専門学校の特徴の一つにと、領域科目を重視することとし、音楽・美術・体育と言葉を交えた表現力重視での学生の育成にあたった。したがって、現場経験の教員と各専門性の高い教員とのT・Tやいろいろな教育内容で感性や表現力を引き出した。管理職として、教員が指示で活動が終わらずに確認まで行う様に教員に求めた。そして、もっとも重要な学生への声掛けを行ってコミュニケーションをとるように学生との信頼関係の醸成を求めた。

○北九州保育福祉専門学校の教育課程編成に取り組んだ。再課程認定に関係しての変更であり、質の良い保育者の育成に向けて、保育者としての基本である視点を取り入れた校訓の制定と保育内容の充実化に向けて指導法に2倍の時間を配当し、現在「教職実践演習」という必須科目があるが、その必須以前から独自科目で、「保育内容総合演習」という時間を設け、アクティブラーニングとして、学生が主体的に保育内容の領域に関して各テーマ別にグループ化し、教員チームと幼児チームに分かれての模擬保育を行った。「教職実践演習」の時間が必須化されたので、現在は中断している。また、北九州保育福祉専門学校の教育の体系化のために、カリキュラム樹系図の作成を教育課長に指示をし、体系化を実現した。二年間の教育活動や実践が一目瞭然となって学生にも教員にもわかりやすくなった。さらに授業効果を高める意味で15名の外部のプロたちを招聘し、特別授業や講話、授業補助等を行い、本物に触れあう機会を作った。効果は大きいと改めて感じている。

2. 作成した教科書、教材

○「教職概論」と「教育方法論」の補助教材の作成を行った。「論語に見る教育の在り方 その2」とし、副題を「論語の教育と江戸期の教育」と題して、教育方法と教師像についてまとめた。江戸期では、我が国の特徴の一つである寺子屋教育に注目し、緒方洪庵と吉田松陰、貝原益軒の三者を選定した。論語も江戸期も双方ともそれぞれ教育方法と教師の資質等に関して比較したものである。

○教育内容の補助教材にと考え、「論語に見る教育の在り方 その1」として、46個の章句から金谷治と貝塚茂樹の翻訳の比較をしつつ、講師の唱える教育内容についてまとめた。

主な研究活動

【学術論文】

1. (教育実践記録等) 「論語に見る教育の在り方 その1」

(概要) 教育内容の補助教材にと考え、「論語に見る教育の在り方 その1」として、46個の章句から金谷治と貝塚茂樹の翻訳の比較をしつつ、論語における教育内容についてまとめた。徳目を最大限に重視する姿勢を学生には「保育者の心」として活用できればと考えた。

2. (教育実践記録等) 「論語に見る教育の在り方 その2」 副題「論語の教育と江戸期の教育」

(概要) 「教職概論」と「教育方法論」の補助教材の作成を行った。「論語に見る教育の在り方 その2」とし、副題を「論語の教育と江戸期の教育」と題して、論語と江戸期の教育方法と教師像についてまとめた。江戸期では、緒方洪庵と吉田松陰、貝原益軒の三者を選定した。論語も江戸期も双方ともそれぞれ教育方法と教師の資質等に関して比較したものである。

3. (教育実践記録等) 「保育者養成と教育課程編成の工夫についての検討」

(概要) 教育課程編成に関して、授業は実践事例等を中心にして、「教育は人なり」という言葉を念頭に

置いて教員としての資質を重視してきた。幼児教育では倉橋惣三先生の「心もち豊かな保育者」を目指して常に研鑽に励むように指導し、幼児教育の根本には、0～1歳の乳児、未満児、以上児と、三つの幼児理解をベースに、その発達を理解を深め、内面への視点・観察眼の育成、言葉かけ、優しい支援の手を差し出す教育的愛情、健康と安全、環境等や、遊びを中心に据えている。さらに領域とその指導法を重視する上で、領域の指導法には倍の時間を設定し、とりわけ「言葉」と「表現」領域を焦点化し、コアカリキュラムに沿って教育課程編成を行い、主体的で対話的な納得のいく効果的な授業実践を行っている。

4. (教育実践記録等)「職業実践課程における教育課程編成会議の報告と課題」

(概要) 教育課程編成上、様々な課題と対応を考慮する中、教育相談にあたっては幼児・児童のみならず保護者の悩みとも向き合うことの重要性について論じた。とくにその方法に関しては、自身の教諭経験を踏まえ、幼児・児童一人一人の特性に応じて対応することや、外部を含めたチームで対処することが重要である点を明らかにした。職業専門実践課程の認定を受け、外部の専門家や施設関係者、その関連団体の指導者などの指導や指摘がその認定上、必須であり、それを受けて、より良い教育課程編成を作成し、優れた教員を養成する上で、教員の心の在り方と同時に五領域の保育内容とその指導法に重点を置き、さらに求められる十の姿に関連付けしている。表現と感性の重点化に、言葉・表現(音・美・体)を重視し、加えて人間関係や幼児理解のための取り組みの工夫や実践、触れ合いを重点化している。ICTの分野の充実化と性被害を出さない幼児への人権教育、また、障害児や母国語理解の困難性のある幼児などの特別支援への指導も行っている。レゾエミリアの教育もそうだが、幼児教育の要には音楽と美術の芸術の指導主事を筆頭に教員も専門分野の造詣の深い指導主事クラスばかりを充てている。ここでは、養成校の在り方として一つのスタイルを提示していると考えている。

5. (教育実践記録等) 領域「言葉」の理解と児童文化財の演習における一考察

(概要) 丸田敦子講師との共著 丸田敦子執筆ページp101～p105
幼児教育の根本には、幼稚園教育要領と保育所保育指針をもとにして、心情・意欲・態度の記されている「ねらい」と「内容」及び「内容の取り扱い」の重点部分を解説し、0～1歳の乳児、未満児、以上児と、三つの段階をベースに、その発達状況の理解を深め、特に五領域における言葉と関係の深い視点と、言葉かけ、言葉の機能、言葉の成立と成立以前との比較、そして児童文化財の紹介とその実践を展開した。領域「言葉」の説明として、幼稚園教育要領と保育所保育指針をもとにして、心情・意欲・態度の記されている「ねらい」と「内容」及び「内容の取り扱い」の重点部分を解説し、0～1歳の乳児、未満児、以上児と、三つの段階をベースに、その発達状況の理解を深め、特に五領域における言葉と関係の深い視点と、言葉の機能、言葉の成立と成立以前との比較、そして児童文化財としての「ストーリーテリング」と「素話」との違いやカルタ遊びや「言葉遊び歌」などの児童文化財とされる作品等の紹介とその実践を展開した。

6. 「これからの教職に求められる資質・能力の一考察」

(概要) 昭和時代の従来の知識や技能を伝える指導から平成時代はアクティブラーニングを取り入れ子どもの主体性を対話とともに重視してきた。令和時代はさらに、個別最適な学びと協働的な学びとして、子どもの主体性を活かして自由な中で特色的な授業・研究活動も行われ、外部地域の人材活用も積極的に行って行かねばならない。同時に子供理解を土台にして子供中心の教育がなされるものと考えている。

7. (教育実践記録等)「国語科指導論」

(概要) 幼小接続において、あらたに架け橋プログラムが設置され、小1プログラムの解消のため、スムーズに移行するうえでの10の姿を架け橋として学習指導要領と幼稚園教育要領における言葉の獲得や機能の学習が重要である。領域「言葉」と保育内容指導法を活用して言葉による、理解力・判断力・表現力の育成と確認、言葉の獲得など、絵本の読み聞かせと絵の活用による話す力を中心とした表現力を養いたい。例えば、絵から文章(話)へ逆に話から絵を描くイメージ力の向上、言葉遊びうた活用をする。個別最適な学びと協働的な学びで一人一人に適した言葉かけによる指導と研究を支援し、それを全体で協働的な学びとなるように行いたい。話す力聴く力の育成とICT教育の活用を図り、言葉を中心とした指導にしたい。

	8.	
	(概要)	
主な社会活動	・福岡県国漢部会の理事に就任し県立高校の国語教育の研究開発に取り組んだ。 (平成5年3月まで)	(1992年4月)
	・福岡県教育委員会教育庁指導第一部高校教育科の指導主事として、教科「国語」における学習指導要領の改訂や授業改善などについて、及び教育課程編成など、教務関係全般を中心に要請のあった学校や科目による研修会等で、趣旨説明や注意点を喚起すべく説明と指導を行った。研修会参加での講演や指導は三十校程度に上る。政令都市の福岡市立の高校の研修会でも講演した。県立中学校の開設と高校との創設に関して三形態での特色ある中高一貫の学校づくりを担当した。(平成11年3月まで)	(1996年4月)
	・福岡県立筑豊地区高等学校教頭会において、総務として会の活性化に尽力した。その研修会で「教頭職の在り方」に関する研究発表を行う。	(2001年8月)
	・福岡県教育委員会教育庁高校教育科総括主任指導主事として、学習指導要領の改訂に関して、総則編の全体研修会での説明、授業改善指導、教務生徒進路等の各役員の研修会での講演指導助言を行う。(平成16年3月まで)	(2002年4月)
	・全国家庭科技術検定の福岡県代表理事に就任し、産振家庭科の活性化に寄与する。具体的には各関係機関への要請を行い、初めて国公立大学の教育学部に普通科高校ではない専門家庭科から推薦入学者を出した。	(2004年4月)
	・福岡県公立高等学校長協会評議員に就任し、校長協会の活性化に寄与する。県立大学の地域枠推薦入学の実現に取り組み、産炭地の活性化に対する政策に同じく、進学面での地域の活性化に貢献した。	(2004年4月)
	・福岡県高等学校校長協会定時制通信制部会理事として、定時通信制教育の振興に寄与し、60周年記念事業の一環として文部科学大臣表彰を受けた。	(2004年4月)
	・福岡県初任研連絡研究協議会委員に就任し、初任者研修の在り方等を審議した。	(2005年4月)
	・福岡県高等学校養護教諭研究会会長として、養護教諭の部会の活性化に寄与した。	(2006年4月)
	・全国普通科高等学校長会県代表理事兼福岡県高等学校長会長として、普通科高校の生き残りに関する講演等を行う。大学の早期推薦入試時期の改善に問題提起をし、その意見を全国校長協会が取り上げ、文部科学省と国大協側の理解を得て、3学年一学期までの早期獲得禁止の入試改善が実現した。	(2007年4月)
	・福岡県高等学校教育課程専門委員に就任し、教育課程の在り方等を審議した。	(2009年4月)
	・東海大学福岡短期大学 学長付に就任し同短期大学の改革と活性化に貢献した。	(2011年4月)
	・学校法人戸早学園北九州リハビリテーション学院学院長に就任し、学校として、また教育内容における改革やシステムづくりなど学校づくりに貢献した。	(2012年4月)
	・学校法人戸早学園 常任理事 兼 北九州リハビリテーション学院学院長兼北九州保育福祉専門学校校長として学園の活性化に寄与した。	(2013年4月)
・学校法人戸早学園 常任理事 兼 北九州保育福祉専門学校校長として学園の活性化に寄与した。	(2014年4月)	
・豊前市公平委員会公平委員として市職員のトラブル解消に尽力した。	(2013年6月)	
・豊前市教育委員会教育委員に就任し、講演活動や調査指導活動など、二期8年間、市の教育の活性化に寄与した。	(2013年12月)	
・社会福祉法人円和会幼保連携型おおぞら認定こども園評議員に就任している。	(2015年6月)	
・秀明大学主催の教員志望の県内高校生に「教職について」の講義を行った。	(2017年6月)	
・全国幼稚園教員養成機関連合会 副会長就任	(2017年6月)	
・公益社団法人子ども環境学会九州大会 実行委員	(2019年5月)	

	<ul style="list-style-type: none"> ・吉富町外一市中学校組合教育委員会教育委員を兼務した。 ・行橋高等学校 職業関係 (保育者希望者) ガイダンスに参加 	(2020年10月) (2021年7月)
所属学会	研究会：一般財団法人 国語教育学会	(2025年5月 ～現在に至る)
受賞歴	感謝状：全国高等学校家庭科振興会、全国高等学校長協会家庭部会より 感謝状：福岡県高等学校芸術文化連盟より 表彰：福岡県教育委員会永年勤続20年表彰 表彰：福岡県教育委員会永年勤続30年表彰 表彰：文部科学省定時通信制教育60周年功労者文部科学大臣表彰 表彰：全国市町村教育委員会連合会功労者表彰 表彰：福岡県専修学校各種学校協会永年勤続10年表彰	(2006年5月) (2007年5月) (1994年6月) (2004年6月) (2007年7月) (1992年5月) (2022年6月)

所 属	九州栄養福祉大学	こども教育学部	こども教育学科
担 当 科 目	<p>[こども教育学部 こども教育学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康スポーツ科学Ⅰ、健康スポーツ科学Ⅱ 体育 体育科教育実践法Ⅰ、体育科教育実践法Ⅱ 健康の指導法 <p>-----</p> <p>[東筑紫短期大学 保育学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ健康科学Ⅰ、スポーツ健康科学Ⅱ <p>[食物栄養学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ健康科学Ⅰ、スポーツ健康科学Ⅱ 		
専 門 分 野	<p>■体育学</p> <p>■健康・スポーツ科学分野</p>		
最 終 学 歴	日本体育大学	体育学部 体育学科	卒業
学 位	学士 (体育学)		
職 歴	<p>学校法人 直方学園高等学校 教諭 (1992年4月～1997年3月)</p> <p>校名変更 直方東高等学校 教諭 (1997年4月～1998年3月)</p> <p>学校法人 戸早学園 北九州保育福祉専門学校 幼児教育科 非常勤講師 (1998年4月～1999年3月)</p> <p>学校法人 戸早学園 北九州保育福祉専門学校 幼児教育科 専任教員 (1999年4月～2022年3月)</p> <p>国立大学法人 福岡教育大学 教育学部 非常勤講師 (2017年11月～現在に至る)</p> <p>学校法人 戸早学園 北九州保育福祉専門学校 幼児教育科 非常勤講師 (2022年4月～2024年3月)</p> <p>学校法人 別府大学 別府大学短期大学 初等教育科 准教授 (2022年4月～2024年3月)</p> <p>学校法人 別府大学 別府大学短期大学 初等教育科 非常勤講師 (2024年4月～現在に至る)</p> <p>学校法人 別府大学 別府大学短期大学 専攻科初等教育専攻 非常勤講師 (2024年4月～現在に至る)</p> <p>学校法人 東筑紫学園 東筑紫短期大学 保育学科 准教授 スポーツ健康科学 担当 (2024年4月～現在に至る)</p> <p>学校法人 東筑紫学園 九州栄養福祉大学 こども教育学科 講師 スポーツ健康科学 体育 体育科教育実践法 健康の指導法 担当 (2025年4月～現在に至る)</p> <p>【課程認定委員会における教員審査 (単独担当「可」)】 「体育」(令和7年度、九州栄養福祉大学 講師)</p>		
教育上の業績	<p>1998年より2022年3月まで北九州保育福祉専門学校(幼児教育科)の教員として22年間勤務し在籍中は学生課長・学科長を務めた。授業において学生が、予習・復習が出来るように資料及び授業実践のDVDを作成し授業を実施している。2017年11月より現在まで、福岡教育大学、教育学部、非常勤講師(担当科目:健康の指導法)、2024年より別府大学短期大学部、初等教育科、専攻科初等教育専攻、非常勤講師(担当科目:フィットネス、体育科指導法、指導法特論(体育))を担当しており他大学の教壇にも立ち、初等教育の向上を図るとともに地域との連携活動や、学生指導をおこなってきた。</p>		
主な研究活動	<p>【学術論文】</p> <p>1. 体育授業における指導実践記録「明確な視点の必要性」 (概要) 学生指導の観点から「明確な視点の必要性」について述べた。授業の現状から目標を達成するためには物事をどのように捉えるかの視点が重要である。メンタルの視点やアライメント(技術的な視点)の視点などの重要性から、日常の学生生活においても視点は共通として重要である。学生指導では視野を広げることそして最後に学生、自分自身が決断することが重要である</p>		

	ことを論じた。
	2. 遊びの指導における技の習得について実践記録「けん玉」
	(概要) 授業実践遊びの指導法から授業教材である「けん玉」を取り上げ遊びの習熟、遊びの指導における技の習得についてまとめた。具体的指導法、教材の特性、失敗とその問題点の解決について授業実践記録として執筆。
	3. 遊びの指導について授業実践「短縄跳び」
	(概要) 授業実践遊びの指導法から授業教材である「短縄跳び」を取り上げ遊びの指導の指導についてまとめた。具体的指導法、教材の特性、失敗とその問題点の解決について授業実践記録として執筆。
	4. 幼小接続についてアクティブな学びの授業について ～器械運動(跳び箱)を使った運動指導～
	(概要) 小学校学習指導要領において示されている「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という三つの学びの中から「どのように学ぶか」(各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実)という学び方やその質を重視することに着目し、小1プロブレムとまで言われて問題が表面化している幼稚園から小学校への接続におけるスムーズさを考慮し、幼児期の遊びの感覚を取り入れた小学校低学年の科目「体育科」の授業に取り組んだ日々の授業を振り返りとして実践報告として執筆。
【学会発表】	
	1. なし
	〈主催〉 〈開催場所〉 〈開催年月日〉
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・行橋市社会福祉協議会「子育てボランティア養成講座」講師 (2016年3月) ・築城町立椎田中学校「子どもに関わる職業について」講師 (2016年10月) ・福岡県私立 慶成高等学校 「進路ガイダンス：幼児教育・保育」講師 (2016年10月) ・行橋市市民大学講座 「男の美学・女の美学講座」講師 (2016年11月) ・学校法人 豊国学園 豊国学園高等学校「進路ガイダンス：幼児教育・保育」講師 (2016年11月) ・行橋市社会福祉協議会「子育てボランティア養成講座」講師 (2017年2月) ・豊前市千束中学校「保育体験事前学習講演会」講師 (2017年6月) ・福岡県立東鷹高等学校 社会人特別講師招聘事業「子どもの発達と保育」特別講師 (2017年6月) ・行橋市市民大学講座 「男の美学・女の美学講座」講師 (2017年11月) ・福岡県立東鷹高等学校 「1DAY CAMPUS：保育分野」特別講師 (2017年11月) ・学校法人 九州電気工業学園 希望ヶ丘高等学校「保育・福祉に関わる仕事」講師 (2018年11月) ・福岡県立 築城西高等学校「進路ガイダンス：幼児教育・保育」講師 (2019年12月) ・福岡県立 行橋高等学校 「体験学習 保育・幼児教育」講師 (2020年2月)

	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県立 東鷹高等学校「キャリアプランセミナー：保育分野」特別講師 (2020年2月) ・築城町立 椎田中学校「子どもに関わる職業について」講師 (2020年2月) ・福岡県立 築城西高等学校「進路ガイダンス：幼児教育・保育」講師 (2020年3月) ・福岡県私立 慶成高等学校「進路ガイダンス：幼児教育・保育」講師 (2020年5月) ・福岡県立 東鷹高等学校「進路ガイダンス：保育分野」特別講師 (2020年9月) ・築城町立 椎田中学校「子どもに関わる職業について」講師 (2021年3月) ・「お仕事フェスタinなかつ」保育：kamiで遊ぼう 講師 (2021年4月) ・大分県立 玖珠美山高校高等学校「進路ガイダンス：保育分野」特別講師 (2021年7月) ・福岡県立 東鷹高等学校「進路ガイダンス：保育分野」特別講師 (2021年7月) ・福岡県立 東鷹高等学校「進路ガイダンス：保育分野」特別講師 (2021年9月) ・福岡県立 門司大翔館高等学校「進路ガイダンス：保育分野」特別講師 (2022年3月) ・福岡県立 行橋高等学校「進路ガイダンス：保育分野」講師 (2022年3月) ・大分市 保育所等職員研修「身体を使った遊び(3. 4. 5歳対象)」講師 (2022年12月) ・大分市 保育所等職員研修「身体を使った遊び(3. 4. 5歳対象)」講師 (2023年11月) ・福岡県立 築上西高等学校「進路ガイダンス：保育分野」特別講師 (2024年6月) ・福岡県立 東鷹高等学校「進路ガイダンス：保育分野」特別講師 (2024年7月) ・北九州市 連携事業 北九州市立年長者研修大学校周望学舎シニアカレッジ「遊びを通して一緒に楽しく学びましょう」～主体的でより深い学び～講師 (2024年10月) ・大分県 保育所等職員研修「身体を使った遊び(3. 4. 5歳対象)」講師 (2024年11月) ・学校法人 美萩野学園 美萩野女子高等学校「進路ガイダンス：保育分野」特別講師 (2025年1月) 	
所属学会	日本保育学科学会	(2016年5月～現在に至る)
受賞歴	一般社団法人 福岡県専修学校各種学校協会 会長 永年勤続表彰	(2020年6月)